

卷末言

本誌をお読みいただきありがとうございます。

お読みいただいた通り、本誌13号は「エア・パワーの新たな地平」との特集テーマのもと、小泉氏によるエア・パワーの歴史的変遷から始まり、その先に何があるのかを理論的、経験的に見通せる範囲で将来のエア・パワーの「在り姿」に関する我々なりの見解をまとめてみました。

今年度の研究により、「エア・パワーの新たな地平」の先に何があるのかは多少なりとも「見える」ものがありましたが、「見える」ことが我々のゴールではありません。有史以来、人類のフロンティア精神は際限がなく、見えたらそこにたどり着くことが次の目標になります。そのためには、どのようにそこにたどり着くのか算段を立て、乗り物等の移動手段を確保することが必要です。

これを我々の研究に当てはめると、今回、理論建てした「エア・ダイナミカル」や「2つのパリティ・モデル」をどのように作戦運用に取り込んでいくか、そして、その取り込みにあたり、どのような防衛力を構築していくかが今後の課題となります。

こうした問題意識のもと、現在、航空研究センターでは研究を継続しており、統合・マルチドメイン時代の防衛力のあり方として今回の研究成果をさらに前進させております。その成果は本年2月20日の航空宇宙防衛力シンポジウムの中で発表させていただく予定です。

航空研究センターは今後もこうした最先端の防衛力の発展に寄与していく所存ですので、当センターに対し、引き続きご理解とご協力を賜いますよう、お願い申し上げます。

『エア・アンド・スペース・パワー研究』副編集委員長
航空自衛隊幹部学校 航空研究センター副センター長
1等空佐 三輪 英昭